



十神地区のイチオシ!

# まちの タカラ

## 安来港で栄えた町並み ～歴史を後世に伝えるために～



▲中尾さん所有の「荒文館」。1780年頃にできた旅館で、初代お糸も安来節を披露していた場所です。  
◀元々鉄問屋だった建物をリノベーションした「子どもの本 一つぼ」。建物側面の相談室の看板はねっこかなこさん作です。

十神地区は、鉄や米などの積出港として安来港を中心に栄えた地域で、今も周辺には江戸時代後期から昭和時代初期にかけての町並みが残っています。

しかし、そうした景観を形作る建築物は、老朽化や管理者の高齢化によって、空き家の状態が長く続いて荒れてきたり、取り壊しになったりすることが増えています。

そんな地域の家々を残したい、空き家で悩む人の助けになりたいと活動している団体が「安来小路暮らし相談室」です。元々は個人で、所有している古民家を地域の人のために開放していた中尾隆義さん。中尾さんを中心に、古民家をリノベーションし開業した人や建築・設計の専門家、不動産関係者、郷土史家など、昔ながらの町並みを大切に思う人が集まり、団体として令和元年頃から活動を始めました。

この団体では、建物だけでなく、文化、風習、歴史といった十神地区を取り巻くさまざまな要素の保存、興味関心を持ってもらうための発信といった活動に力を入れています。中尾さんは「この地域では、物流の拠点として各地の産物や文化が入ってきていました。隠岐との乾物のつながりといった食文化について調べたりしたいと思っています」と今後の活動について語りました。

### 編集後記

▼先日、黒井田町の廃止された大堤跡に大量の蓮の花が咲いているとの情報をいただき行ってみました。そこには白やピンクの蓮の大輪の花がたくさん咲いており、美しさとともにその迫力に圧倒されました。なぜそこに蓮が群生しているのかは不明ですが、安来の新しい蓮の鑑賞スポットになるかもしれませんね(け)

▼「安来小路暮らし相談室」の取材の際、荒文館のある西灘の通りも案内していただきました。外観は変わっても、屋根や土間といった建築様式は残っている建物が多いという話や、鉄問屋をはじめとする当時の店舗配置の話伺いました。歩きながら、活気あふれる港町の風景が思い浮かぶ一時でした(岩)

安来市の人口と世帯数	R5.7.31現在
人口合計	36,007人 (男:17,323人 女:18,684人)
世帯数	14,252世帯